令和４年度　　発表日：令和４年９月28日

農作物病害虫発生現況情報（９月）　水稲編

岩手県病害虫防除所

１　いもち病

（１）収穫期の巡回調査では、穂いもちの発生圃場率・発生程度とも平年より高く、平成25年並の発生となった（図１）。

（２）全県で広く発生しており、地域別では北上以南、気仙で発生程度の高い圃場がみられた（図２）。

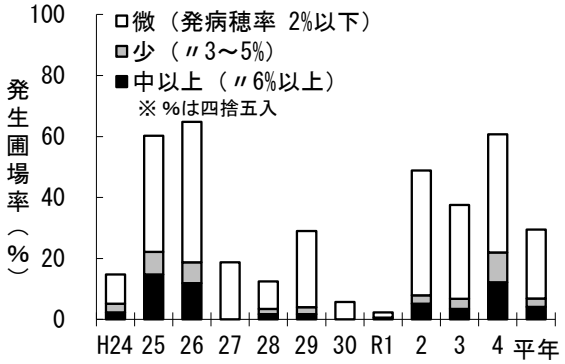

図１　穂いもちの発生圃場率の年次推移（収穫期）

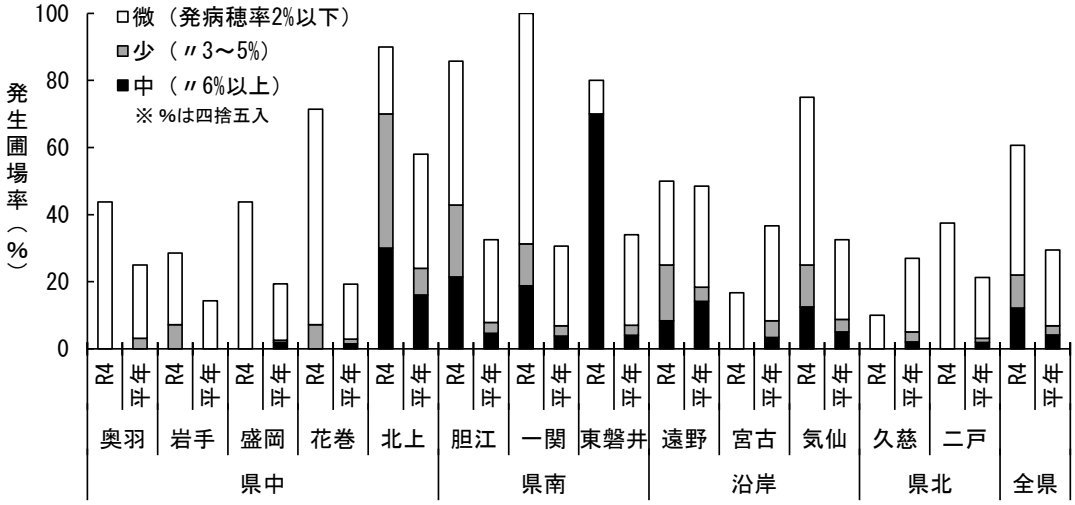

図２　穂いもちの地域別発生圃場率（収穫期）

２　紋枯病（疑似紋枯病を含む）

（１）収穫期の巡回調査では、発生圃場率は81.5%（平年77.5%）で、平年並だった（図３）。

３　ごま葉枯病

（１）収穫期の巡回調査では、発生圃場率は6.9%（平年4.2%）で、平年よりやや高く（図４）、特に沿岸地域で多く見られた。

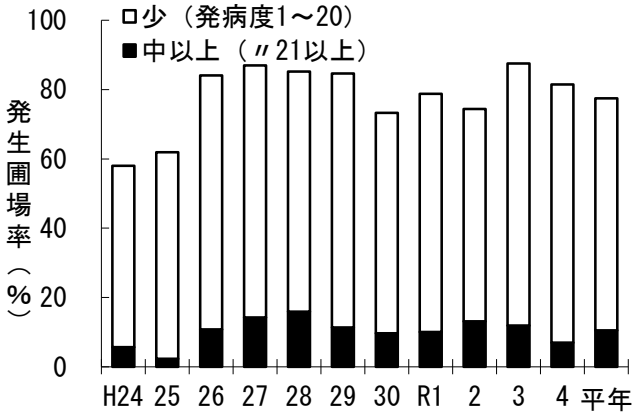

図３　紋枯病の発生圃場率の年次推移（収穫期）

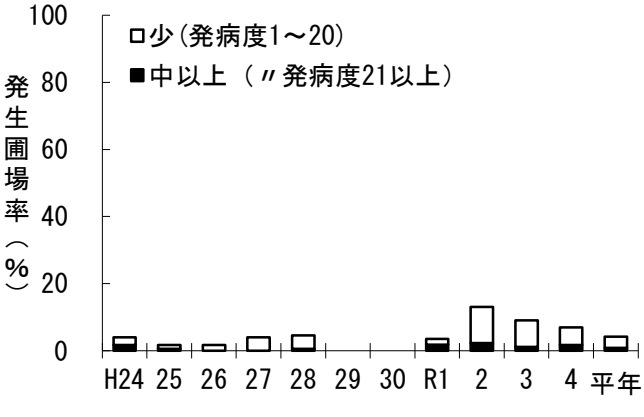

図４　ごま葉枯病の発生圃場率の年次推移（収穫期）

4　稲こうじ病

（1）収穫期の巡回調査では、発生圃場率は6.9%（平年3.9%）で、平年よりやや高かった（図５）。

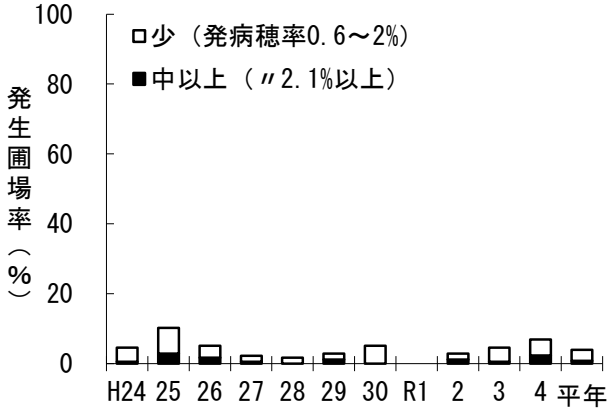

図５ 稲こうじ病の発生圃場率の年次推移（収穫期）

5　斑点米カメムシ類

（1）基準圃場（北上市成田、メヒシバ、イタリアンライグラス）におけるすくい取り調査では、アカスジカスミカメの発生が８月第４半旬と９月第１半旬で、平年より高かった（図６）。

（2）収穫期の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は46.0%（平年37.1%）で、平年よりやや高かったが、発生程度中以上の圃場率は18.4%（平年16.3%）で、平年並だった（図７）。

（3）山間部の一部の圃場で、チャイロナガカメムシの多発生が確認された。

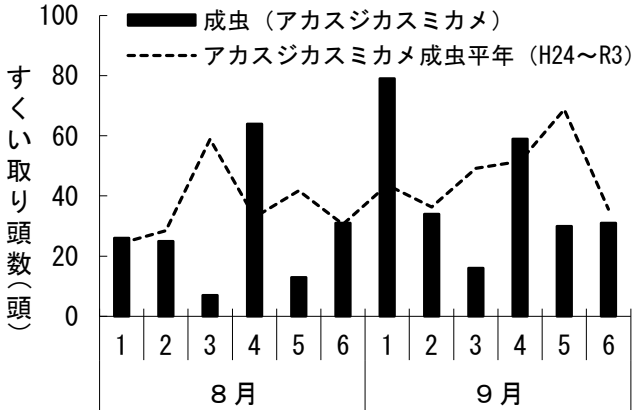

図６　基準圃場（北上市成田、メヒシバ、イタリアンライグラス）におけるアカスジカスミカメ成虫の時期別推移（すくい取り、往復20回振）

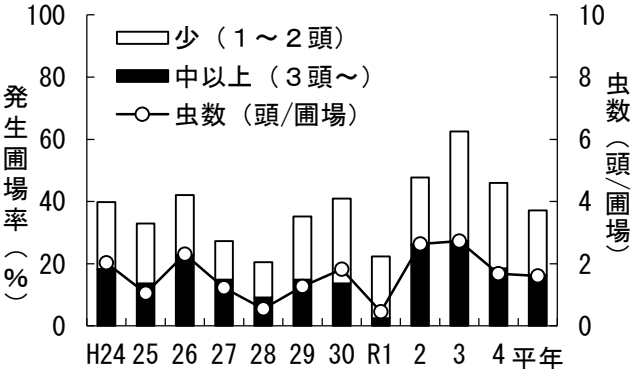

図７　斑点米カメムシ類の発生圃場率及びすくい取り虫数の年次推移（収穫期、本田すくい取り、往復20回振）

6　ウンカ類

（1）セジロウンカ

収穫期の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は28.7%（平年31.5%）で、平年並だった（図８左）。

（2）ヒメトビウンカ

収穫期の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は67.8%（平年67.0%）で、平年並だった（図８右）。

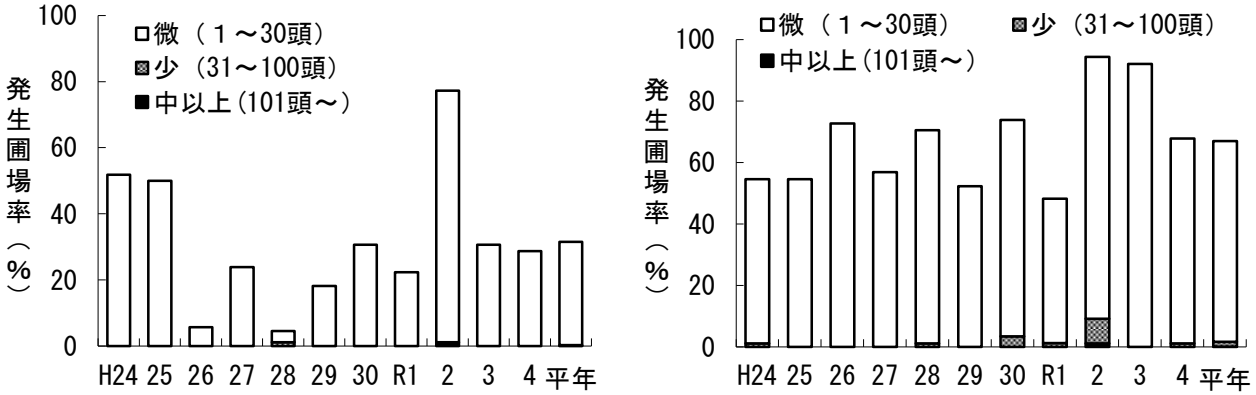

図８　ウンカ類の発生圃場率の年次推移

（左：セジロウンカ、右：ヒメトビウンカ、収穫期、本田すくい取り、往復20回振）

7　ツマグロヨコバイ

（1）収穫期の本田内すくい取り調査では、確認されなかった。

8　イネキモグリバエ（イネカラバエ）

（1）収穫期の巡回調査では、一部の圃場で被害穂が見られ、発生圃場率は4.0%（平年1.5%）で、平年より高かった（図9）。

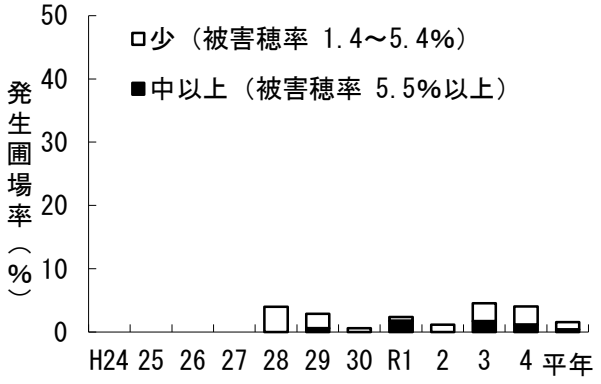

図9　イネキモグリバエの発生圃場率の年次推移（収穫期）